

産婦人科性器感染症に対する 7432-S の臨床的検討

設楽芳宏・太田博孝・真木正博

秋田大学医学部 産科婦人科*

津田 晃・村田純治

秋田組合総合病院 産婦人科**

経口用セフェム系抗生物質 7432-S につき、産婦人科性器感染症に対する臨床効果を検討した。すなわち付属器炎 1 例、術後リンパのう腫感染症 1 例、外陰血腫感染症 1 例の計 3 例を対象とし、7432-S を経口にて投与し、その臨床効果、副作用などについて検討した。投与量は 1 日 300 mg を症状に応じて 5～10 日間使用した。

臨床効果は 3 例とも有効であり、細菌学的には外陰血腫感染症の例で菌の陰性化を認めたが、他の 2 例は原因菌の同定後薬剤の有効性の評価はできなかった。自覚的副作用は 1 例に消化器症状を認めたが臨床検査値ではいずれも異常を示さなかった。

以上より本剤は婦人科性器感染症に有用であると考えられた。

Key words : 7432-S, 産婦人科, 性器感染症

7432-S は塩野義製薬で合成された新しい経口用セフェム系抗生物質で、腸内細菌群を含む広範囲のグラム陰性菌および一部のグラム陽性菌に対して抗菌スペクトルを有している。

今回、我々は塩野義製薬より 7432-S の提供を受け、産婦人科性器感染症に対する臨床効果を検討したので報告する。

I. 対象および方法

当院産婦人科外来を受診した産婦人科性器感染症 3 例を対象とした。受診時の診断別では付属器炎 1 例、術後リンパのう腫感染症 1 例、外陰血腫感染症 1 例の計 3 例であった。

7432-S 投与量は 1 日 300 mg を症状に応じて 5～10 日間使用した。臨床効果の判定は臨床症状の改善に応じて行なった。なお外科的処置を併用して効果のあったものは有効と判定した。

II. 結 果

3 例を Table 1 に示す (Table 1)。

以下個々の症例を簡略に報告する。

症例 1 S. K. 40 歳 臨床診断：左付属器炎。

経過：昭和 61 年 9 月 29 日 38.7℃ の発熱と下腹部痛あり、翌日、当科関連病院を受診、内診にて左付属器に圧痛が著明であり、白血球の増多 (13200/mm³)、CRP の陽性所見 (4+) を認めたため左付属器炎と診

Table 1. Clinical summary of patients treated with 7432-S

Case No.	Name Age	Diagnosis	Total dose (mg)	Organism	Clinical effect	Side effects
1	S.K. 40 y	Adnexitis	2700	Unknown	Good	(-)
2	S.K. 46 y	Lymphocystitis	1500	Spore-forming bacillus	Good	(-)
3	T.N. 42 y	Vulva hematoma	3000	<i>Streptococcus faecium</i>	Good	Nausea

* 〒010 秋田市本道 1-1-1

** 〒011 秋田市上崎港中央 4-4-45

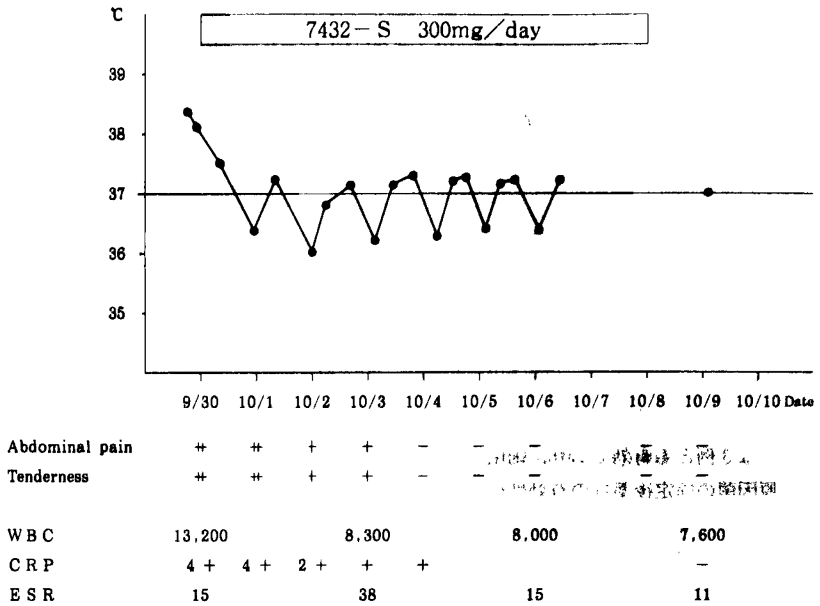


Fig. 1. Case 1, S.K. 40 y.o. Adnexitis.

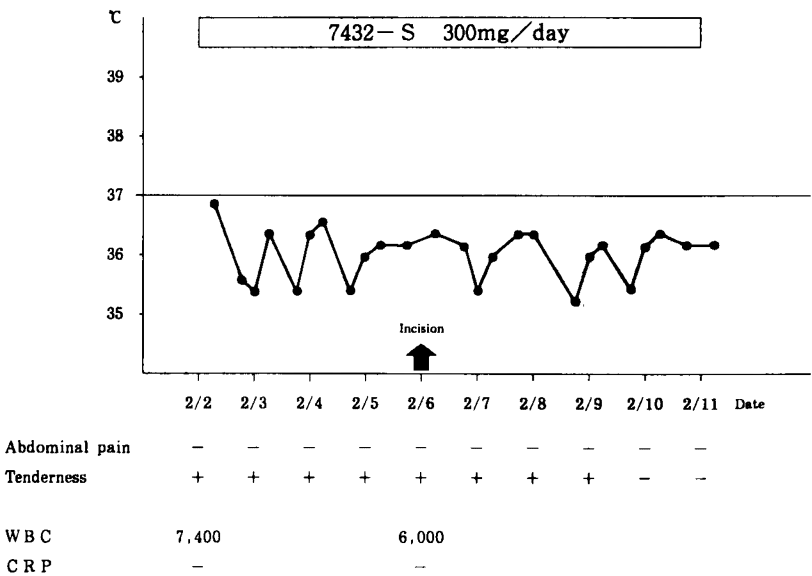


Fig. 2. Case 3, T.N. 42 y.o. Vulva hematoma.

断した。そこで 7432-S 300 mg/日投与を行なったところ、速やかな解熱と臨床症状の改善をみた。検査成績では白血球の正常化 (8300/mm³) が投与 3 日目認められ、CRP も同日には (1+) となった。起病菌の同定は行ない得なかったが、臨床的には有効と判定した。総

投与量 2.7 g 使用したが副作用も認めず、臨床検査値上の異常も認めなかった (Fig. 1)。

症例 2 S. K. 46 歳 臨床診断：リンパのう腫感染症。

経過：昭和 61 年 8 月 6 日子宮癌根治手術を受けた既往がある。昭和 61 年 9 月 22 日下腹部痛を主訴に来院、

超音波断層検査にて骨盤内リンパのう腫を指摘され、血液検査にても白血球の増多 ($9900/\text{mm}^3$)、CRP の強陽性所見 (5+) が認められたため、術後リンパのう腫感染症の診断にて Bacampicillin 1 g/日 5 日間投与が行われた。9 月 29 日白血球数 ($10100/\text{mm}^3$)、CRP (5+) と臨床症状や血液所見の改善を認めないため、使用薬剤を 7432-S 300 mg/日の使用に変更したところ 7 日後には症状の改善、白血球数の正常化 ($8100/\text{mm}^3$)、CRP の減少傾向 (2+) を認めた。総投与量 1.5 g を使用したが、副作用もなく有効であったと考えられた。なお起因菌として 7432-S 投与前の穿刺液から *Sporeforming bacillus gram* が検出されている。

症例 3 T. N. 42 歳 臨床診断：外陰血腫感染症。

経過：昭和 62 年 1 月 17 日左外陰部に腫瘍の出現を自覚し、1 月 20 日当科受診。腫瘍は cystic、超母指頭大で圧痛を認めた。穿刺液は血性で細菌培養により *Streptococcus faecium* が検出されたため、2 月 2 日より 7432-S の投与を開始した。2 月 6 日圧痛の軽減が認められないため、血腫の切開排出術を行なった。その後も

7432-S の投与を続け、4 日後には圧痛も消失した。

切開術施行時の排出液の細菌培養結果では、Normal flora の検出のみであり、7432-S の投与は細菌学的には有効であったと考えられた。内服中に悪心を主とした消化器症状を認めたが、血液生化学的な副作用は認めなかった。臨床経過を Fig. 2 に示した (Fig. 2)。

Ⅲ. 考 察

7432-S は経口用セフェム系抗生物質として開発された新薬である。

今回我々は 3 例の産婦人科領域感染症に本剤を投与し、全例とも有効であると判断された。副作用は 1 例に軽度の消化器症状を認めたのみであり、本領域での有用性が期待される。

文 献

- 1) 第 35 回日本化学療法学会 西日本支部総会、新薬シンポジウム、7432-S。鹿児島、1987

CLINICAL STUDIES ON 7432-S IN THE FIELD OF OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

YOSHIIRO SHITARA, HIROTAKA OTA and MASAHIRO MAKI
Department of Obstetrics & Gynecology, Akita University,
School of Medicine
1-1-1, Hondoh, Akita 010, Japan

AKIRA TSUDA and JUNJI MURATA
Department of Obstetrics & Gynecology, Akita Kumiai
General Hospital
4-4-45, Tsuchizakiko chuo, Akita 011, Japan

We investigated the clinical efficacy of 7432-S in obstetrics and gynecology by administering the drug in a daily dose of 300 mg to 3 patients.

Treatment proved effective in 1 case of adnexitis, 1 of lymphocystitis and 1 of infected vulvar hematoma.

The results were satisfactory in 3 cases.

Side effects were observed in one case of nausea, but there was no abnormal laboratory value attributable to the drug.